

会報

京都マイコン研究会

第 121 号

1997年8月1日発行

発行人 圓口 佳昭

事務局 京都府八幡市八幡城之内20
TEL/FAX 075-981-0063, 982-8064
nomasuda@mbx.kyoto-inet.or.jp

トピックス or ニュース

素早い対応！
しかし、つらい受験用問題集と受験者。

増田

前回の問題とはがらりと変わった今回の出題の内容、世間一般の試験では数年間の出題傾向を主体に受験勉強をして行くのですがパソコン認定試験においてはその限りではないようです。今までに出題されなかった問題がほとんどで受験者の皆さんはゼロからの出発だったのではないのでしょうか。

3級の試験問題には、「Visual Basic」がプログラム言語の問題として出題され。また、ネットワークの問題も「LAN」が登場しており、今までの試験内容とは様変わりしていました。

世間は「Windows 95」と言うわけでしょうね！

パソコンのハードやソフトのスピードに追いついて行かなければ古い過去の道具を使おうとしていて実社会で利用しようとしたときは錆びて腐っていたということになりかねません。

日々、変化するハードやソフトそれらを利用するため今利用できる技術者を社会は求めているのです。この要望に答えには出題する方も受験する方も大変ですね。まず、受験問題集などではパソコン認定試験で認定証を得るのには難しくなり実際に今、自分がパソコンを利用しているようなアプリケーションを使いこなしていなければ認定証が得られないでしょう。

変化の波がどんどん押し寄せる。その波を乗こなしてパソコンサーフィンを皆さん楽しんで下さい。

例会報告

1997年7月5日 (pm.6:30)

場所 大山崎ふるさとセンター

参加者氏名 岩井、若林、中辻、若井、中村
河原、増田、圓口、吉川、加藤 10名
内 容 パソコンチューンナップハード部会
開催 (圓口)
DTP部会
デザイン&グラフィックソフトの操作指導 (増田)

次回例会

97年8月2日 (pm.6:30)

日時 大山崎ふるさとセンター
場所 パソコンチューンナップハード部会
内容 (再度挑戦ノートPC、HD増設)

DTP部会
Adobe ページメーカ操作指導 (増田)
(ワープロソフトとDTPの違い)
Office97 概要 (圓口)
(IME 97)

パソコン認定試験協力会員

圓口・加藤・岩井・若井・若林・神賀
小寺・中辻・増田

皆さんご苦労様でした。

インターネット部会だより

部長 若井征夫

皆さん永らくお待ち頂きました私達のメールアドレス
が開設されました。

アドレス KYOMYCOM

メールアドレス KYOMYCOM@mbx.kyoto-inet.or.jp



「Excel 97 の Visual Basic」と 「Visual Basic for Applications」

今回は、Excel 97 の超高機能を紹介します。

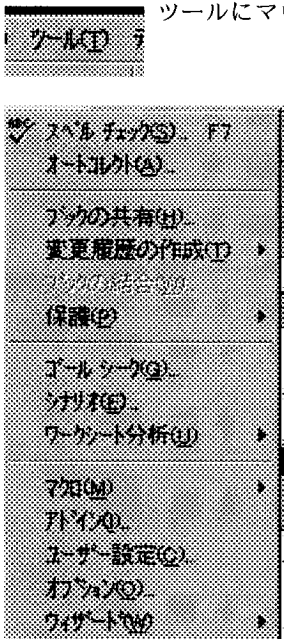
Excel 97 を起動すれば Excel そのものを「workbook」と称してその中に開かれているフォームを「Book」と呼びさらに Book の中にあるラベルを「sheet」と呼んでいます。

さて、Excel 97 で Visual Basic を使うためには設定をしなければ利用できませんので、まずそこから始めます。



Excel 97 のメニューバーからツールを選択します。

ツールにマウスを移動すると



左図のようなプルダウンメニューが現われます。

ユーザー設定(C)...

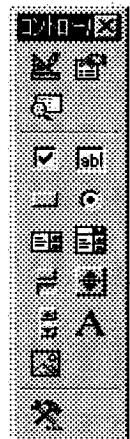
さらに、ユーザー設定をマウスでクリックすれば



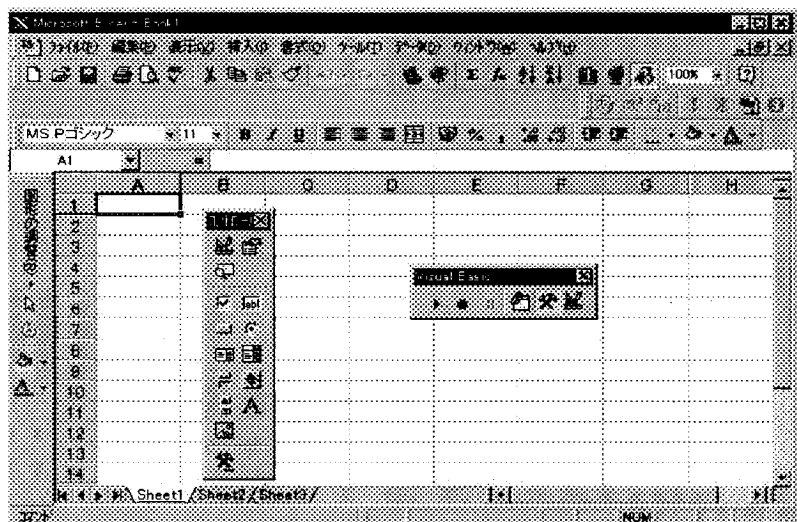
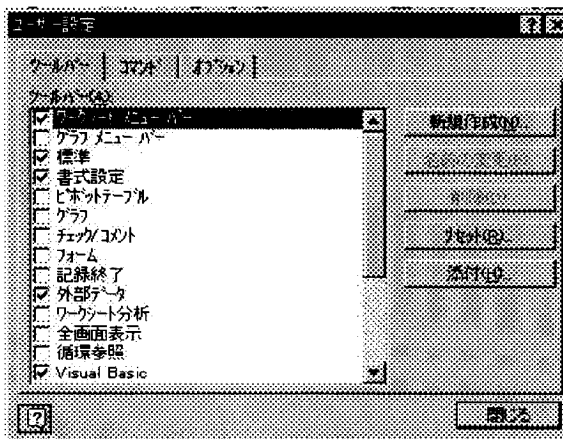
ユーザー設定チェックリストボックスの中の「Visual Basic」にチェックしてさらに次の次のコントロールツールボックスもチェックする。



次に右下部の「閉じる」のコンマンドボタンをマウスでクリックすれば Excel のフォーム上に Visual Basic のツールボックスが。さらに、Excel Basic のコントロールツールボックスが表示されます。



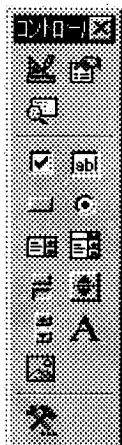
ユーザー設定チェックリストボックスが表示されます。



Excel の中に 2 ッのバターの Visual Basic が存在します。

1 ッは Excel の Sheet 上に作成する色々なオブジェクト類のツールボックス。これはメニューバーのツールでユーザー設定のプルダウンリストボックスの中の「コントロールツールボックス」を選択したときに表示されるものです。

2 ッめは、上記と同じところで「Visual Basic」を選択したときに表示されるボックスです。



「コントロールツールボックス」

このボックスは、Book の Sheet 上に配置するオブジェクトアイコンを集約したツールボックスです。

このボックスは Excel のフォーム上に表示させておくか、ボックスをマウスでドラッグして上のアイコンバーにもって行きマウスを放せば他のアイコンと一体となりそこからコントロール出来ます。



Sheet 上でコントロールボックス内のオブジェクトを利用するには左図のアイコンをマウスでクリックするとデザインモードに設定されます。(設定中は、このアイコンが陥没した状態です。)



コード記述アイコン。アイコンをクリックすれば Visual Basic のウインドーが開きコードエディターが入力をうながすが画面でテキスト入力アイコンが点滅している状態になりここで、コードを記述してください。



プロパティ表示アイコン。利用するオブジェクトに対してコントロール出来るコードをリスト表示してくれます。



チェックボックス。チェックボックスの右に表示されている文字列に対して選択する。



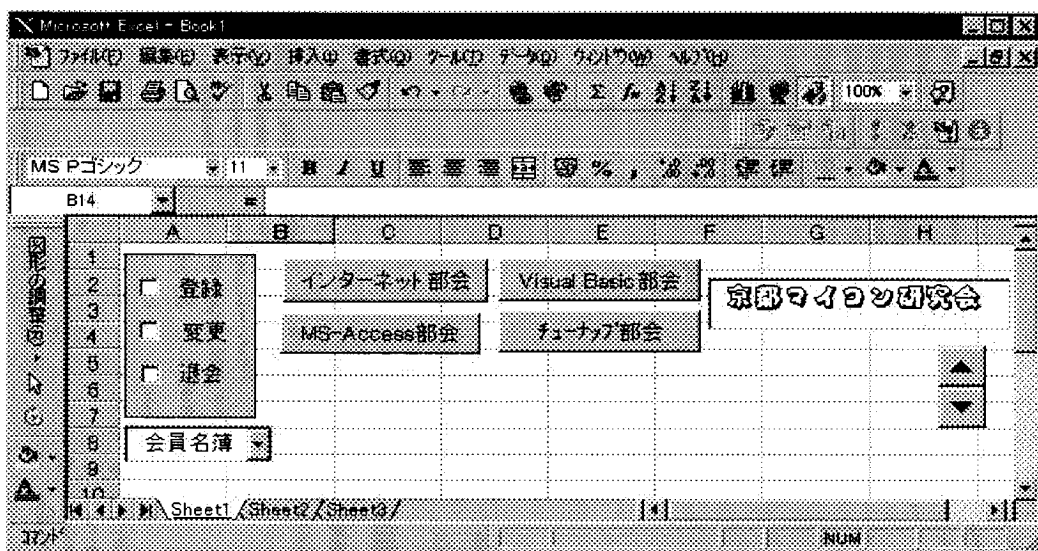
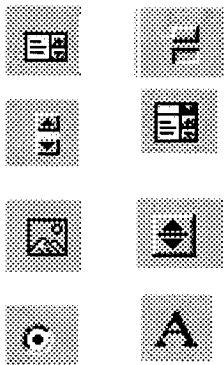
コマンドボタン。コマンドボタンコードエディターに記述してアクションを促すためのボタンです。



新たに利用出来るツールを呼びだし、ボックスにアイコンを表示出来ます。パソコンのシステム搭載されているツールを全て表示します。

下図は Excel の Sheet 上に各種ボタンなどのオブジェクトを配置した見本です。

下図のアイコンが標準で表示されます。



「Visual Basic」



Visual Basicのツールボックスは6つのアイコンが配置されています。このボックスにはマクロ記録ボタンと実行ボタンも含まれていますが今回は、マクロは飛ばします。



「マクロの実行」



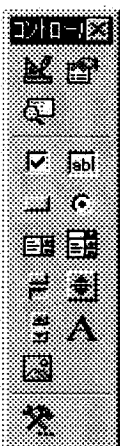
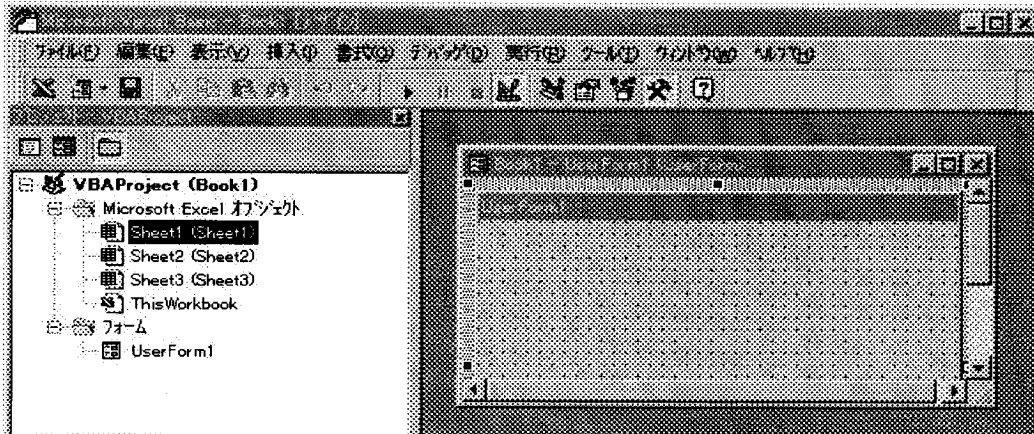
「マクロの記録」



「マクロの継続実行」



「Visual Basic Editor」をクリックすればVisual Basicが起動します。そこでVisual Basicのツールアイコンのユーザーフォームをクリックすると「book1.UserForm1(UserForm)」の中に「UserForm 1」というフォームが表示されます。



フォームにオブジェクトを配置するには、次にデザインモードアイコンをクリックしなければユーザーフォーム上にオブジェクトを配置することが出来ません。

以下はVisual Basic V4の作業と同じですが違うのは、(上図の左の画面) プロジェクトエクスプローラというウィンドウが開かれています。

また、コード記述においてオブジェクト名を記述すれば自動的にリストボックスが表示され次に入力出来るリスト名が表示され選択するだけでコードに記述される便利な機能があります。



このボタンは、コントロールツールボックスを呼び出すためのボタンです。このボックスの機能は左記の章でご照会しました機能です。

入力が終われば、このアイコンをクリックすれば元のExcel画面にもどります。このUserFormで作成すれば実行したときには独立したフォームが表示され色々なプログラムが実行されますが、Excelの画面上にフォームが存在するかぎりExcelのSheetを直接操作することは出来ません。一旦このフォームを閉じてから作業を続けます。

以上、Excel BasicはExcelのSheet上に直接配置出来るオブジェクト類。Visual Basicの独立したフォームを表示してその中で操作をする。

●●● DOS95の解説(第三回) ●●●

tomoppy

真夏の季節になりました。6月の例会で承認を得て、1997年度の専門部会としてスタートすることになりました。これも皆様のご支援のお陰で紙上を借りて挨拶を申し上げます。

最近の傾向として、MS-Windows95 がかなり普及して、DOS OS をベースにして組み込まなければならない Windows3.1 のときのように、DOS コマンドを知る必要が無くなった。また、以前のように DOS コマンドの解説を望まれることが少なくなった。けれども、まだまだ DOS コマンドの使わなければならないときがあるので、この連載を継続しているのである。

今月から、個々の外部コマンドについて説明をする。「Copy」や「Type」などの内部コマンドについては、すでにご承知でしょうから省略する。

1. ADDDRV

デバイス・ドライバ(拡張子:SYS)は起動時(パソコンへ電気入れる)にもメモリへ書き込んで使うが、すべてのプログラムに使わないときは、使うプログラムに必要なデバイス・ドライバをメモリへ書き込むコマンドである。逆にデバイス・ドライバをメモリから除くときは、後日に解説する「DELDIV」コマンドを使って消すことが出来る。

次に、コマンドのオプションを示す。

ADDDRV [ドライブ:][パス]ファイル名
[ドライブ:][パス]ファイル名 定義ファイルを指定します。

2. AVSDRV

拡張サウンドドライバ(拡張子:SYS または BIN)を使えるようにします。

AVSDRV [/E] [/F] [/P] [/R]

/E EMSメモリ上に拡張サウンドドライバを常駐します。

/F FM音源機能のみを常駐します。

/P PCM音源機能のみを常駐します。

/R 拡張サウンドドライバを常駐解除します。

ただし、ADDDRV コマンドや CONFIG.SYS ファイルで組み込んだものは解除できません。

3. CHKDSK

ディスクをチェックして、現在の状態を表示します。

CHKDSK [ドライブ:][パス]ファイル名 [/F] [/V]

[ドライブ:][パス] チェックするドライブとディレクトリを指定します。

ファイル名 チェックするファイルを指定します。

/F ディスクのエラーを修復します。

/V ディスクの全ファイルのフルパスと名前を表示します。

パラメータの指定がなければ、現在のディスクをチェックします。

CHKDSK を実行する代わりに、SCANDISK を使ってみてください。SCANDISKの方が、より確実に問題を見つけ、修正できる問題の範囲も広がります。

※ MS-Windows95の「エクスプローラ」の画面から、同様の操作が行える。上記のコマンドを使って、Windowsのディレクトリの領域を修復に障害を生じるようなので使わない。

4. CHOICE

いくつかの選択肢から選ぶためのプロンプトを表示します。

CHOICE [/C[:]選択肢] [/N] [/S] [/T[:]c,nn] [文字列]

/C[:]選択肢 選択肢として有効なキーを指定します。既定値は YN です。

/N プロンプトの終わりに選択肢と ? を表示しません。

/S 選択キーの大文字/小文字を区別します。

/T[:]c,nnnn 秒経過した後の選択肢の既定値を c に設定します。

文字列表示するプロンプト文字列を指定します。

ERRORLEVEL はユーザーが選択肢の中から押すキーのオフセットに設定されます。

※ このコマンドは、新しいコマンドのようだ。この使用法は拙者も調べたが、実例がなく説明ができない。推測であるが、旧版のDOSコマンドの「BATKEY」に相当するコマンドのようで、起動したいプログラムをメニューで画面に表示して、その中から選択できるコマンドのようである。

5. DEBUG

プログラムのテストと編集のツールであるデバッガを起動します。

DEBUG [[ドライブ:][パス]ファイル名 [テストファイル-パラメータ]]

[ドライブ:][パス]ファイル名 テストするファイルを指定します。

テストファイル-パラメータ

テストするファイルに必要なコマンドライン情報を指定します。

デバッガを起動してから、?と入力するとデバッガのコマンド一覧が表示されます。

※ 旧版のDOSと同じ機能である。最近のプログラム開発言語には、超便利なツールが使われている。

6. DELDRV

ADDDRV で組み込んだデバイス ドライバを取り外します。

7. DELTREE

ディレクトリとそれに含まれるサブディレクトリとファイルをすべて削除します。

ファイルやディレクトリを削除するには:

DELTREE [/Y] [ドライブ:]パス [[ドライブ:]パス[...]]

/Y ディレクトリを削除するかどうか確認するためのプロンプトを表示しません。

[ドライブ:]パス 削除するディレクトリ名を指定します。

注意: DELTREE を使うときには注意してください。指定されたディレクトリ内のすべてのファイルとサブディレクトリが削除されます。

※ 新しいコマンドのようだ。過去の操作では、削除したいサブ・ディレクトリを直接に削除「RD」コマンドを使えなかった。便利なコマンドができた。

8. DISKINIT

固定ディスクまたは3.5インチ光ディスクの初期化を行います。

DISKINIT [<装置番号> [/P]]

<装置番号> 初期化する装置の番号です。

/P キー入力要求メッセージを表示しません。

<装置番号>を省略すると一覧から選択できます。

※ 新しいコマンドで、光ディスク装置を使っている方には便利である。

HDD装置などと物理や論理フォーマットが同じでないことから、分離されたようだ。

9. DISKCOPY

指定されたドライブ上で、フロッピーディスクまたは3.5インチ光ディスクのバックアップコピーまたは、照合を行います。

DISKCOPY [ドライブ1: [ドライブ2:]] [/P] [/Q | /V] [/M]

/P DISKCOPYの次のキー入力を行わなくするスイッチです。

①ドライブへのディスク挿入と確認の要求

②処理終了時の再実行確認メッセージ

/Q コピー時に照合を省略して、高速にコピーします。

/V 照合のみを行う場合に指定します。

/M メモリだけを使ってマルチパスコピーを行います。

送り側と受け側のディスクは同じタイプでなければなりません。

フロッピーディスクの場合は送り側と受け側のドライブは同一ドライブを指定することもできます。

また、フォーマットしながらコピーすることもできます。

※ MS-Windowsを使ってマウスで簡単に操作できるので、使われることはなさそうだ。

10. DOSKEY

コマンドラインの編集、MS-DOSのコマンドの再呼び出し、マクロの作成をします。

DOSKEY [/スイッチ ...] [マクロ名=[文字列]]

/BUFSIZE:サイズ マクロとコマンド履歴バッファのサイズを設定します。(省略値:512)

/ECHO:on|off マクロの展開のエコーを設定/解除します。(省略値:on)

/FILE:ファイル マクロの一覧を含むファイルを指定します。

/HISTORY メモリに記憶されているコマンドをすべて表示します。

/INSERT 入力した文字列が古い文字列に挿入されるように指定します。

/KEYSIZE:サイズ キーボードバッファのサイズを設定します。(省略値:15)

/LINE:サイズ 行編集バッファの最大値を設定します。(省略値:128)

/MACROS DOSKEY マクロを表示します。

/OVERSTRIKE 入力する文字列が上書きするように

指定します。(省略値)

/REINSTALL	DOSKEY の新しいコピーを組み込みます。
マクロ名	作成するマクロの名前を指定します。
文字列	登録するコマンドを指定します。
↑ ↓	コマンドの再呼び出しをします。
Esc	コマンドラインを取り消します。
F7	コマンド履歴を表示します。
Alt+F7	コマンド履歴をクリアします。
[文字]F8	コマンド履歴を検索します。
F9	数字でコマンドを選びます。
Alt+F10	マクロの定義を消去します。

次に示すのは DOSKEY のマクロ定義で使う特殊コードです:

\$T	コマンドのセパレータです。マクロで多重コマンドが使えます。
\$1-\$9	バッチパラメータです。バッチファイルで使う %1-%9 と同じです。
\$*	マクロ名に続くコマンドライン情報に置き換えられる記号です。

※ このコマンドは常駐して便利である。DOSモードでプログラム言語を開発には超便利なツールの一つである。

次号は、E文字から始まるコマンドから説明する予定である。

インターネット・ブラウザに使う 「Plug-In」ソフトのあれこれ

(Tomoppy)

インターネットのホームページをサーフしていても文字列や画像を見たり読んだりするのみでは、厭きてくる。また、最近のホームページにはゲームなどを始めとし、いろいろな仕掛けがあり、それを楽しもうとすると、次のような MS-Windows ソフトが必要となるので紹介する。

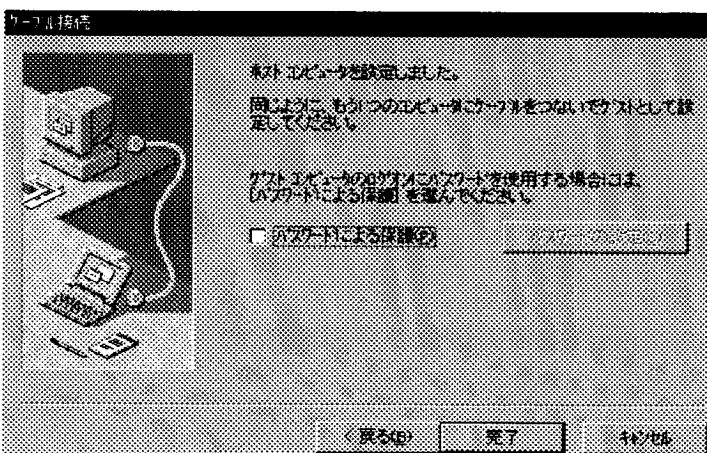
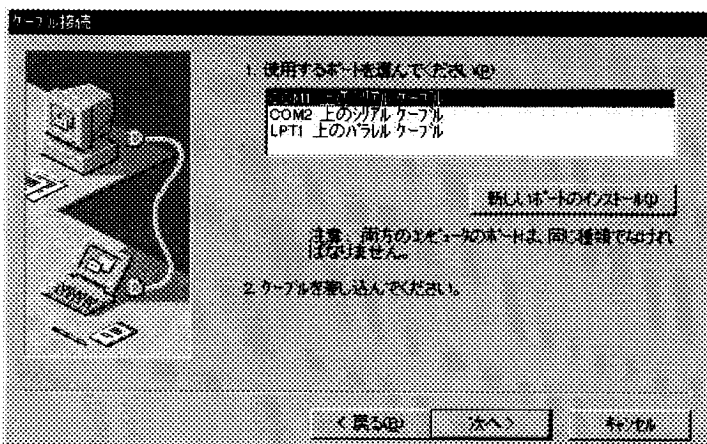
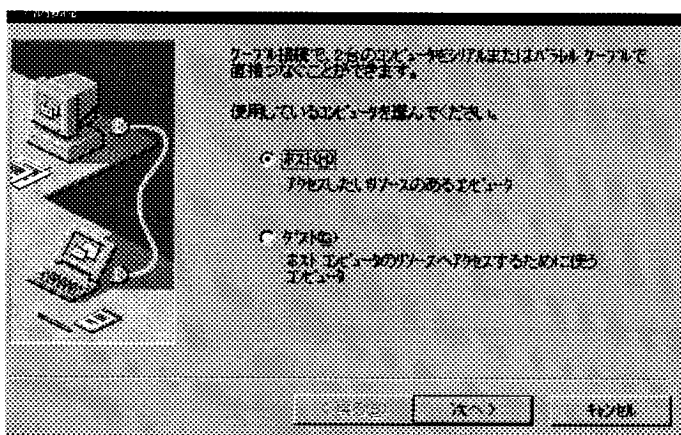
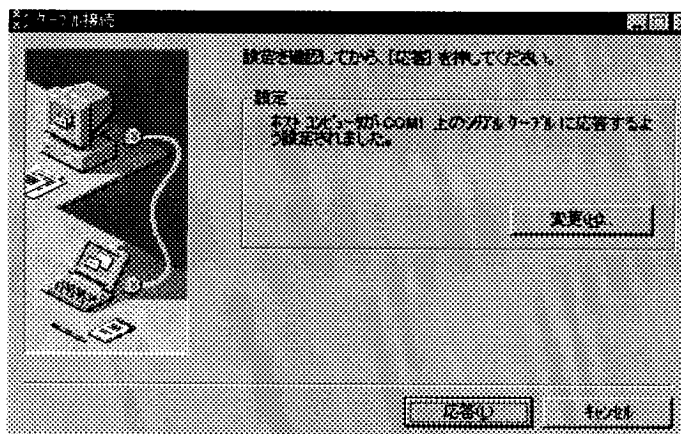
ツール名	用 途	入手先
Shockwave		
Director	ゲーム、音や動画のリアルタイム再生など	http://www.macromedia.com/
RealPlayer	Video や音声再生 (生放送も受信)	http://www.realaudio.com/
stream Works	同 上	http://www.clubwab.or.jp/
VDOLive	Video や音声再生	http://www.vdo.net/
MidiPlug	MIDI 音楽再生、(リアル再生可)	http://www.yamaha.co.jp/
QuickTime Plugin	動画 (音声も含む) 再生	http://quicktime.apple.com/
Acrobat	印刷物並の高画質の文章を表示	http://abobe.com/

以上のソフトも含めて、月刊誌「INTERNET magazine」の付録 CD-ROM 盤に最新版が収録されている。

以上。

LAN

nomasuda



パソコンとパソコンを ケーブルで接続する。

パソコンとパソコンをケーブルで接続するには、双方のパソコンのアクセサリの中にケーブル接続のアイコンが表示されていなければなりません。もし、アイコンがなければコントロールパネルを開けて、アプリケーションの追加と削除アイコンをクリックしWindowsファイルのタグを押してファイルの種類のボックスで通信をクリックしてその中のケーブル接続をチェックするとPulseのディスクを要求してきますので、ディスクを挿入すればインストールが始まりパソコンが再立ち上げされます。

さて、インストールされたパソコンのスタートからプログラムさらにアクセサリのケーブル接続をクリックすれば左図のような画面が現われる。その中で、ホストとゲストの設定ボタンがあります。

どちらのパソコンを利用してコントロールするのかにより設定して下さい。

ホストを先に設定して接続相手の設定処理をまつ。

もう一方のパソコンつまり、操作して何かをしようとするパソコンはゲストですので、ゲストのラジオボタンを選択します。次へを押すとパソコンがホストを探に行きます。一方のホストはゲストを探しているままで稼働していましたが、ゲストを見つけるとゲストが見つかりましたのメッセージが表示されます。これでケーブル接続が完了です。

以上でケーブルで接続されたパソコンとパソコンが一体となりネットワーク化ができます。

増田

